

東映アニメーション 2024 年 3 月期 通期決算説明会

質疑応答(2024 年 5 月 14 日)

【ご質問①】

先日鳥山先生が逝去されたが、今年の秋放送開始の「ドラゴンボール DAIMA」や、今後の作品展開に影響はありますか

【ご回答①】

足元の「ドラゴンボール DAIMA」につきましては、予定通り今年 2024 年秋から放送開始を予定しております。その他の「ドラゴンボール」のリリースとしては、先日サウジアラビアの「ドラゴンボールテーマパーク」も発表しました。今後も当社は原作元をはじめとした関係各社の皆様と協力し、アニメーション製作を起点としたドラゴンボールの IP 価値の拡大に努めてまいります。

【ご質問②】

今回の株式売出しの最終結果がどうなったのか教えてください。また売出し先との間で、今後ビジネス上の関係の変化は有るのか教えて下さい。

【ご回答②】

販売先は国内の個人投資家が 65%、並びに海外の機関投資家が 35%です。株主全体に占める割合ですが、個人投資家の方は、従来の約 5%から 12%に増加。また海外の機関投資家は、欧米亜夫々の SWF や LO など中長期保有を志向する優良投資家群を中心に、約 7%から 11%へと保有割合が増加しました。また、売出人とのビジネス上の関係性についてですが、両社グループは当社の重要なビジネスパートナーであり、株式の保有有無にかかわらず、両社グループとのビジネス上の強固な関係性は、今後も不変です。

【ご質問③】

最適な現預金水準などがありますか、今後のキャッシュの使い道は。

【ご回答③】

当社のキャピタル・アロケーション方針ですが、映像製作を安定的に行うための“財務の健全性確保”、競争力強化や成長力維持に向けた“戦略投資”、そして投資戦略や業績動向に応じた安定的な“株主への利益還元”、この3つのバランスを取り、適切に運営していくのが基本方針です。

足元、非常に堅牢な財務基盤が確保できていると考えており、今後は、中長期的な成長に向けた戦略投資や株主還元に関して、より積極的に取組む所存です。

2024年3月期の配当については、過去最高益を計上した前年度と同額(4/1付株式分割前のベース)1株当たり155円、配当性向は同30%を上回る33.7%、とさせていただきます。

2025年3月期につきましても、安定配当を基本方針とし、戦略投資や業績動向等に応じて、総合的に判断して参りたく存じます。

また戦略投資につきましても、オーガニック成長に資する投資は勿論のこと、ノンオーガニック成長の観点から、M&Aも選択肢から排除せず、取組んで参る所存です。

【ご質問④】

業界としてクリエイターの労働問題やクリエイター不足が指摘されていますが、御社の場合それらのリスクは無いのですか

【ご回答④】

クリエイターの待遇・労働問題、それから人材不足に関しては業界全体の大きな課題であると認識しています。

その中であって当社は業界でも最高水準の待遇を誇っており、不安定なフリーランスという立場の方が圧倒的に多い業界にあって社員採用、契約社員採用も積極的に行

っております。また、スタッフ達が過重労働とならないように深夜、土日はスタジオを閉館する等して労働時間も適切に管理しております。待遇面以外でも、クリエイター達が魅力を感じる質の高い作品、価値のある作品を生み出し続けることも非常に重要であると考えています。

加えて、人材確保・育成の一環として昨年から社内に作画アカデミーという機関を開設しアニメーターの育成にも注力しており確実に成果が見えてきております。

【ご質問⑤】

為替/円安メリットについてコメントできることがあればお願いいたします。ドルやユーロの1円円安による、営業利益へのインパクトなどのご試算があればお聞かせください。

【ご回答⑤】

当社は、売上の過半が海外向けで構成されていますので、基本的に「円安」は、収益面で好ましい後押し要因です。

為替感応度については開示しておりませんが、2023年度は売上ベースで約40億円程度の押し上げ効果がありました。因みに期初に設定したドル円予算レートは130円台前半でしたが、通期では平均約144円で決済できています。2024年度については、145円で計画を建てています。昨年度より一部の大口取引については為替予約で押さえるなど、為替動向を注視の上、アクティブな対応も行っています。

【ご質問⑥】

24年度のガイダンスが保守的ではないでしょうか。前期のように上方修正を何度も行うということにはなりませんか。

【ご回答⑥】

足元の事業環境は国内外とも好調が維持できています。過度に保守的に見積もっている訳ではないのですが、今年度は複数新作の放映開始による製作原価や主力IP

群の周年イベントに関わる広告費の増加、クリエイターを始め従業員の定期昇給・ベア上積み等、将来の収益拡大に繋げる戦略的な投資の数々を積極的に実施するため、前年度対比では、減収減益になります。

一方、未だ期初段階ですので、これからですが、22/3 期以前の売上 500 億円台、営業利益 150 億円台の頃と比べると、1段階上のステージ、過去 3 番目となる売上・利益水準を達成することを目指しています。

また、売上の過半を海外向けが占める当社にとり、足元円安基調が続いていることは、追い風要因です。

一部為替予約等の対応も取っていますが、そうしたことと併せ、経営陣として最低限達成したい目標値、というように捉えて頂ければ幸甚です。

【ご質問⑦】

生成 AI が話題ですが、AI の進展は御社にとってポジティブですかネガティブですか

【ご回答⑦】

当社独自での研究開発も盛んに行っており、製作工程の一部ではありますが着色や背景作成等において徐々に活用が始まっており、確実に作業の効率化は図られております。こういったポジティブ面は期待も含めて大いにありつつも、一方では法整備の面では進捗も国ごとに異なっていたり、モラルに関する考え方もまだ議論の最中という認識ですので、著作権を守る立場、クリエイター達を尊重する立場をとる当社として十分に留意しつつ、引き続き積極的に研究、検証して参ります。

【ご質問⑧】

御社にはドラゴンボールやワンピース等の人気漫画を原作とする IP をお持ちですが、最近の人気漫画は他社がアニメ化しているように思えます。今後はどのようなアニメを製作していくのでしょうか。

【ご回答⑧】

人気漫画原作 IP の獲得が、必ずしもすべてビジネスの成功につながるとは限らないと考えています。当社としては、これまで培ってきた知見を活かし、幅広い視野のもとファンの皆様に長く愛されるような作品の獲得や創出を念頭に置きます。

現在当社の売上に占めるドラゴンボール、ワンピースの割合は高いですが、昨年 20 周年を迎えた「プリキュア」シリーズや、今年 25 周年を迎える「デジモン」シリーズ等、確実に成長している IP も数多くあります。

有望な人気漫画原作の獲得努力は継続しますが、このようなファンの皆様に長く愛されるような IP の獲得、育成を継続し、主要作品の売上は引き伸ばしつつも、同依存度が減少していくことが理想と考えています。

【ご質問⑨】

今後拡大を見込んでいる地域はありますか

【ご回答⑨】

海外ビジネスにおいて、現在は中国を筆頭とした東アジアと北米、この2つが最大のマーケットであり、この状況はまだしばらくは続くと考えていますが、同時に、それ以外の今後成長が見込まれる地域に関してもしっかりとフォーカスして参ります。

具体的には東南アジアや、先日サウジアラビアでの「ドラゴンボール」のテーマパークの計画を発表した中東地域にも大きなビジネスチャンスがあると確信していますので、こちらにも引き続き注力して参ります。

【ご質問⑩】

「鬼太郎誕生 ゲゲゲの謎」が非常に好調でしたが、その背景と、このような旧作のリブートは今後も継続して行うのでしょうか

【ご回答⑩】

この映画は原作者である水木しげる先生の生誕 100 周年記念プロジェクトの一環であり、ホラー要素を強めた大人の方にも楽しめる作品を作りました。

興行収入はシリーズ史上最高の 27 億円を突破し、日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞を受賞するなど、業界でも高い評価を頂戴しております。各 2 次利用への反響も非常に大きく、鬼太郎という IP を再活性化させるきっかけになりました。

このような単なるリメイクに留まらないリブートの例では、直近では「THE FIRST SLAM DUNK」の大ヒットもございました。今後も当社では数多くのライブラリ作品を今の時代背景に合わせてリブートし、2 世代 3 世代にわたって愛される映像展開を行って参ります。

【見通しに関する注意事項】

当資料に記載されている内容は、現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、記載された将来の計画数値、戦略、施策の実現を確約、保証するものではありません。